

福德岡ノ場の火山活動解説資料（令和4年5月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

2021年8月下旬以降、噴火は認められないものの、引き続き、変色水域が確認されています。

福德岡ノ場の過去の活動履歴を考慮すると、2021年8月に発生した陸地を形成するような規模の噴火が、再びすぐに発生する可能性は低いと考えられますが、変色水域が確認されるなど、活発な火山活動が継続しており、今後も噴火の可能性があります。

福德岡ノ場の周辺海域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やバースサージ（横なぐりの噴煙）に警戒してください。噴火による浮遊物（軽石）にも注意が必要です。

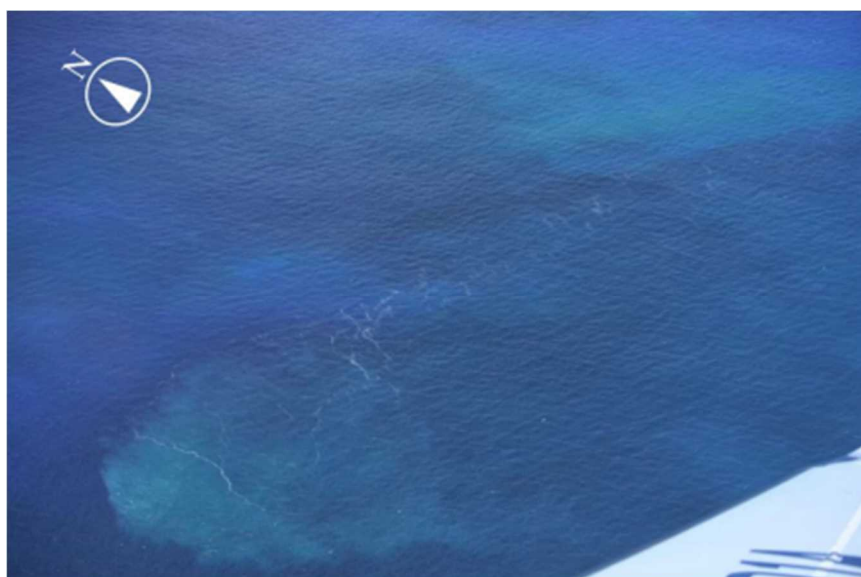
令和3年8月16日に噴火警報（周辺海域）を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

○ 活動概況（図1）

気象衛星ひまわりの観測では、噴火は確認されていません。また今期間、噴火を示唆するような輝度温度¹⁾の変化は認められていません。

16日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、新島は認められず、火口直上に直径約300mの青白色の変色水が円形状に分布し、その付近では白い浮遊物が認められました。また、青白色の変色水の湧出点から東方向へ約3kmにわたり黄緑色の変色水が帯状に分布していることが認められました。

1) 輝度温度とは、気象衛星で観測された放射エネルギーを観測対象が黒体と仮定して変換した温度のことで、他の温度と区別するためこのように呼ばれています。



2022年5月16日 13:11
海上保安庁提供

図1 福德岡ノ場 火口直上の状況（5月16日）

- ・海上保安庁が16日に実施した上空からの観測では、火口直上に直径約300mの円形の青白色の変色水の分布及びその付近で白色の浮遊物が認められました。
- ・青白色の変色水の湧出点から東方向へ約3kmにわたり、黄緑色の変色水が帯状に分布していることが認められました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_vact_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上自衛隊、海上保安庁及び第三管区海上保安本部のデータも利用して作成しています。

各種気象情報や衛星画像は福德岡ノ場ポータルサイトを御覧ください。 https://www.jma.go.jp/jma/menu/R03_karuishi-menu.html

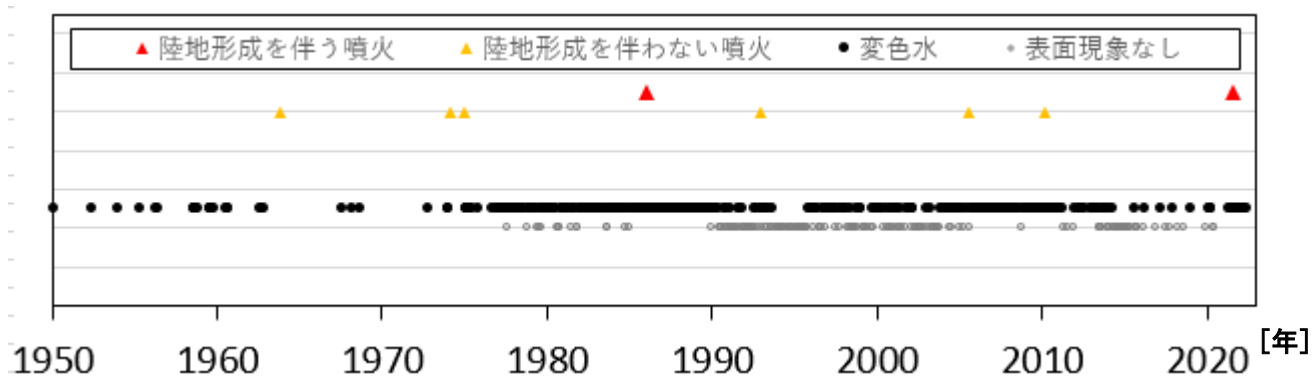


図2 福德岡ノ場 1950年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。●は変色水域が認められた観測、○は変色水域が認められなかった観測、▲は陸地形成を伴う噴火が認められた観測、△は陸地形成を伴わない噴火が認められた観測を示します。海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊、気象庁、漁船及び報道機関等の観測による。

- ・2021年8月13日に海底噴火が確認された福德岡ノ場では、過去にも数年間隔で海底噴火が確認されています。発生する噴火には、陸地を形成するような規模の噴火と、陸地を形成しないそれよりも規模の小さな噴火があります。
- ・1986年にも噴火が発生し、新島を形成しましたが、海面上に姿を現す顕著な噴火は1月18日～21日の数日でした。その後、3月26日には新島は消滅しています。
- ・2010年2月3日に小規模な海底噴火、浮遊物、変色水域が認められた後も、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が断続的に認められていました。
- ・福德岡ノ場の過去の活動履歴を考慮すると、2021年8月に発生した陸地を形成するような規模の噴火が、再びすぐに発生する可能性は低いと考えられます。

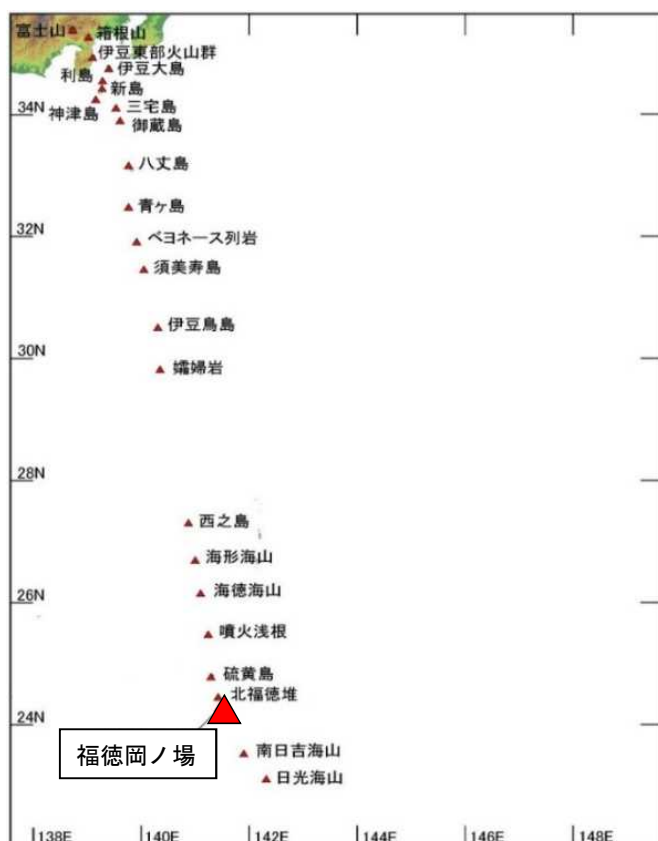


図3 福德岡ノ場 伊豆・小笠原諸島の
活火山分布と福德岡ノ場
地図は、日本活火山総覧（第4版）から引用。